変革・創造・実践

MONTHLY ZEN-NOH GUNMA

県本部通信

2014 February No.143 2

JA全農ぐんま

私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

事業のうごき ②

営農総合支援センター

○野菜の生産拡大のための取り組み支援
○JA営農経済渉外活動の導入・
　実践にともなう総合的な支援
○担い手支援のための取り組み
○食の安全・安心対策への取り組み

畜産農産部

酪農畜産課

○生乳の計画生産の推進
○初妊牛導入推進
○素牛導入推進
○種豚導入推進
○渋川家畜市場若齢子牛の集荷推進
　（優良ＥＴ卵産子の活用促進）

米麦特産課

○桑苗推進（平成26年３月引渡予定）
○きのこ種菌・種駒推進
○こんにゃく荒粉・精粉入札販売推進

園芸部

園芸販売課

○共計雨除けほうれん草販売　（周年）
○共計チンゲンサイ販売　（周年）
○共計味にら販売　（周年）
○共計上州ねぎ販売　（２月末日迄）
○共計春菊販売　（３月上旬迄）
○共計白ねぎ販売　（３月末日迄）
○共計土ねぎ販売　（３月末日迄）
○共計ブリックスナイン販売　（６月末日迄）
○県統一規格共計きゅうり販売　（７月末日迄）

販売促進課

○春野菜販売促進
○もやし類・加工野菜販売促進
○花き類販売促進

園芸資材課

○春用出荷資材予約推進
　（ほうれん草・きゅうり・山うど・ふき他）
○平成26年産青果物段ボール予約推進
○温床資材予約推進（農ビ・ポリ・マルチ他）
○春用野菜種子推進
　（ほうれん草・枝豆・とうもろこし他）

生産資材部

花木流通センター

○売出し・フェアの実施
　☆花木流通センター
　２月14日（金）～17日（月）　春一番園芸フェア
　☆愛菜館
　２月８日（土）、19日（水）、28日（金）
　　８の日 お米特売
○造園工事推進

肥料農薬課

○水稲培土早期引取推進
○施設園芸肥料推進
○セルフブレンド推進
○土壌消毒剤推進
○茎葉処理除草剤大型規格推進

生活部

生活課

○太陽光発電推進　（周年）
○生花利用拡大運動推進　（周年）
○蔵出しいよかん・せとか・甘平推進　（１月～２月）
○デコポン推進　（２月～３月）
○仕込み味噌推進　（25/10月～26/３月）

施設住宅課

○賃貸アパート・個人住宅推進　（周年）
○カクイチ物置・広スペースハウス推進　（周年）
○住友不動産「新築そっくりさん」推進　（周年）

自動車燃料部

ガス課

○第２回お客様謝恩キャンペーン
○新生活応援セール

新年祝賀会
（1.6　JAビル）

■気持ちも新たに決意表明

１月６日（月）、平成26年の仕事始めにあたり「新年祝賀会」が執り行われ、JA群馬中央会・各連合会の役職員等が多数出席しました。挨拶に立った長岡会長は、「地域農業に貢献するため、本年も組織をあげて取り組んでいきたい。」と述べました。式典には、来賓として県選出の国会議員の方々も出席され、農業が抱える諸問題に対し、一致団結して取り組む決意を新たにしました。

渋川家畜市場初市式
（1.10　渋川家畜市場）

■高品質の子牛生産へ向けて

１月10日（金）、平成26年の初せりにあたり「渋川家畜市場初市式」が開催されました。式典では、当県本部畜産農産部の柳田部長、県農政部畜産課の糸井課長が代表して新年の挨拶を述べました。式典の最後には、群馬県JA繁殖和牛部連絡協議会の小川会長による景気づけが行われ、生産者・関連機関が一体となって畜産振興に取り組むべく、思いを一つにしました。

ＪＡはぐくみデイサービスセンター竣工式
（1.12　JAはぐくみデイサービスセンター）

■地域介護を応援

１月12日（日）、「JAはぐくみデイサービスセンター竣工式」が行われ、施主代行を務めた当県本部も出席しました。森澤理事長は、「利用者ニーズに応えた施設が完成した。『自宅で暮らせる喜び、家族とともに居られる幸せ』を基本に、JAらしいサービス向上に努めたい。」と挨拶しました。温もりのある施設には太陽光発電システムも設置されており、２月１日（土）にオープンしました。

上州牛・上州麦豚試食販売
（1.18　花木流通センター）

■「安全・安心・美味しい」を届けたい

1月18日（土）、㈱群馬県食肉卸売市場による「上州牛・上州麦豚試食販売」が行われました。この催しは、花木流通センターにおいて毎月開催されており、来場者に対しアツアツの焼肉が振る舞われました。試食した来場者からは、「柔らかくて本当に美味しい。」という声が多数寄せられ、県産食肉の品質の高さと美味しさをＰＲしました。花木流通センターでは、今後も定期的に開催する予定です。

だるま目入れ式
（1. 21　JAビル）

第17回群馬県きのこ品評会
（1.21 ～ 22　群馬県庁）

■目標達成を祈願

１月21日（火）、園芸部において、事業目標達成に向けた「だるま目入れ式」が行われました。須藤本部長は、「風通しの良い職場づくりが目標達成に繋がる。職員が一致団結し、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋として頑張って欲しい。」と挨拶しました。式には、須藤本部長・須藤副本部長を始めとする多くの職員が参加し、一人一人思いを込めて目入れを行いました。

■自慢のきのこがずらり

１月21日（火）～ 22日（水）、県・群馬県きのこ振興協議会・当県本部共催の「第１７回群馬県きのこ品評会」が開催されました。この催しは、きのこの品質向上と消費拡大を促進し、きのこ栽培の安定化を助長するとともに、県産きのこの振興に寄与することを目的に毎年開催されています。良質な生しいたけ・まいたけ・なめこ等が多数出品され、審査及び表彰・きのこ汁の試食・展示品即売会等が行われました。

ＪＡたのふじ本店竣工式
（1.24　ＪＡたのふじ新本店）

JA－SS冬のビッグキャンペーン抽選会
（1.28　ＪＡビル）

■新拠点の完成に期待

１月24日（金）、「ＪＡたのふじ本店竣工式」が行われ、施主代行を務めた当県本部も出席しました。挨拶に立った浦部理事長は、「役職員一同心を新たに、地域から愛され信頼されるよう、一歩上のＪＡを目指したい。」との思いを述べました。新本店は、女性職員の意見も積極的に取り入れ、開放的で機能性の高い空間となっています。新拠点として、２月３日（月）より業務を開始しました。

■豪華賞品当選者が決定

１月28日（火）、日頃からJA-SSをご利用してくださっているお客様に感謝の気持ちを込めて、鍋グルメ券・上州黒豚ロースステーキ・ＪＡ高崎ハムセットが当たる「冬のビッグキャンペーン抽選会」が、須藤本部長・境野副本部長等関係者により行われました。このキャンペーンは、11月～12月までの２ヶ月間実施され、応募総数40,541枚の中から当選者が決定しました。

専門知識を基礎から学ぶ

1．23　平成25年度第2回土壌・肥料技術研修会　JA東日本くみあい飼料㈱大間々肥料工場

１月23日（木）、生物の生育に適した健康な土づくりや環境に配慮した肥料技術の向上につながる土壌診断の普及と、適正肥料による系統肥料の事業の取扱い拡大を目的として、土壌診断センター主催の「平成25年度第２回土壌・肥料技術研修会」が開催されました。５月に行われた第１回に続く今回の研修会には、ＪＡの担当者約20名が出席し、肥料の技術や土壌診断項目のポイント、土壌の技術等の説明を受けた後、JA東日本くみあい飼料㈱大間々肥料工場内を見学しました。

きゅうり応援ソングを披露　消費拡大に期待！

1．25　ＪＡ邑楽館林によるトップセールス　東京青果

１月25日（土）、ＪＡ邑楽館林と当県本部は、本県産野菜の中央卸売市場での取扱いを拡大し、消費者へ広くＰＲすることで本県産野菜の地位向上を図ることを目的としたトップセールスを行いました。会場となった東京青果では、小池組合長を始めとするＪＡの役職員等が来場者に対し、きゅうりやいちごの試食を提供し美味しさをＰＲしました。また、地域農業応援アイドルのMenkoiガールズのメンバーが、きゅうりのレシピ提案型の楽曲である「きゅうりちゃん音頭」等を披露し、歌とダンスで会場を盛り上げました。

洋蘭各種大特価！今年も大盛況！

1．25～26　洋蘭フェア　花木流通センター

１月25日（土）～26日（日）、花木流通センターでは、恒例の「洋蘭フェア」が２日間に渡り開催されました。会場内は、シンビジウム・カトレア・胡蝶蘭などの色とりどりの洋蘭各種で埋め尽くされ、良品質の鉢花が大特価で購入出来るとあって、両日共に店内には長蛇の列が出来ました。また、25日（土）には「午前市」や「いちご祭り」も同時開催され、新鮮な農産物を買い求める人達で賑わいました。

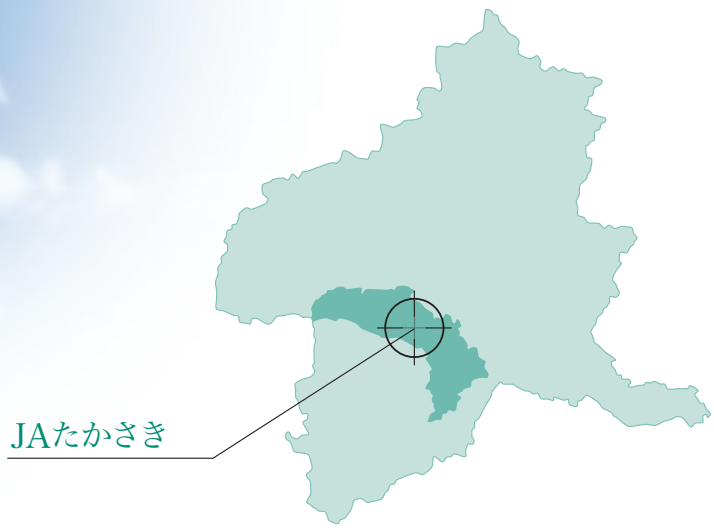
JA みどりの風 放映予定

GTV 48ch 放映のお知らせ

番組名／提供	放送日 ※再放送日	時　間
地域を担う、集落営農／ＪＡ群馬中央会	※３月２日(日)	AM８:00～８:30
ごはん・お米とわたし図画・作文コンクール／ＪＡ群馬中央会	３月３日(月)	PM９:00～９:30
	※３月９日(日)	AM８:00～８:30

三隅 有里子アナ

農業チャレンジャー



祖父の思いと技術を繋ぐ

JAたかさき管内　**高橋　博子** さん

高橋　博子（たかはし･ひろこ）さん

1985年生まれ、28歳。

飼養頭数：10頭

栽培面積：牧草・・・・・ 72a

麦 ・・・・・・ 53a

趣　　味：テニス

座右の銘：忍耐努力・前進あるのみ

歩み始めた農業の道

今回のチャレンジャーは、JAたかさき管内で和牛の繁殖を行う高橋さんです。２年前までは自動車関連の会社に勤めていたという高橋さん。就農のきっかけを伺うと、「酪農を営む祖父の影響もあり、大学は農学を専攻し、会社員として働き始めてからも休日を利用して祖父の手伝いをしていました。後継者がいない中で農業に従事する姿を見ているうちに、『祖父の技術や守ってきた土地がなくなってしまうのはもったいない！』と思うようになりました。」と話してくれました。

現在は酪農から和牛の繁殖に転換し、師である祖父と共に二人三脚で日々の作業を行っているそうです。

強い信念で突き進む

今年で就農２年目。当初は様々なことに苦労したそうで、「仕事に慣れるまでは、体力的にきつかったですね。機械の操縦も一から覚えました。牛の扱いをはじめ、様々な場面で男性に劣る部分があり、女性というだけでリスクのある世界だと痛感した時もあります。しかし、リスクはどの職種にもありますし、皆、不安や悩みを抱える中でも希望を持ち頑張っています。私も、『やっていくうちになんとかなる！やるしかない！』という強い気持ちで臨んでいます。しかし、まだまだ修行の身。何かあれば駆けつけてくれる近隣の農家さんやJAの皆さんには本当に感謝しています。」と話してくれました。

「祖父と孫」のいい関係

最後に、今後の展望を伺うと、「今は祖父と２人ですが、ゆくゆくは私１人でやっていかなければなりません。その為、一日でも早く一つでも多くのものを身につけたいと思っています。最近では、私から祖父に新しい提案をし、それを聞いてもらえるようにもなりました。親子ではなく、祖父と孫の関係だからこそうまくいくのかもしれませんね。一年一産を目標に、祖父が守りたいもの、背負っているものを少しでも引継げるようこれからも努力していきたいです。」と話してくれました。

「就農して本当に良かった」と笑顔の高橋さん。女性の優しさと強さで前進し続ける姿に、今後の活躍が期待されます。

1 牛のブラッシングをする高橋さん。「やるなら本気でやれ」と祖父からエールを受けたそう。

2 周囲のサポートを受けながら、仕事に邁進する日々。

3 安全・安心をモットーに、生産性向上を目指す。

4「愛情込めて育てた牛が評価された時が一番嬉しい」と高橋さん。

がんばってまーす!

INTERVIEW

ＪＡ佐波伊勢崎
たまむら営農センター

八木　政幸さん

Profile

やぎ・まさゆき（32歳）

趣味……映画鑑賞
特技……スノーボード
好きな食べ物……野菜
●職場の皆さんから見た八木さん
「とても真面目な好青年です。これからのJAを背負う若手職員として、期待しています！！」

「家族と組合員のため、育児と仕事に邁進」

――どうしてJAで働こうと思ったのですか？

実家が農家なので、幼い頃から親しみのあったJAへの就職を決めました。

――現在の仕事内容を教えてください。

野菜の荷受けや販売、組合員への指導、青色申告業務等を行っています。今の時期（１月）は、青色申告について適正な申告が円滑に行われるよう気を配っています。

――以前はどのような仕事をしていたのですか？

入組当初は、ここ、たまむら営農センターで野菜の指導・販売をしていました。その後、玉村町農業公社で農地・農機の賃借業務や、直売所での店長業務を経て現在に至ります。

――現在の職場の雰囲気はどうですか？

自分は一番下なのでサポートしてもらうことも多く、先輩方には感謝しています。「仕事はチームワークであり、１人の力では出来ない」ということを強く感じますね。

――仕事をするにあたり、気を付けていることはありますか？

実家が農家だからこそ、組合員の方々と深く付き合うことの難しさを感じることもあります。そのため、日頃からコミュニケーションを大切にし、頼れるＪＡ職員となれるよう努力しています。

――趣味は映画鑑賞とのことですが、休日の過ごし方を教えてください。

映画館や自宅で映画を楽しんでいましたが、昨年末に第一子が生まれたので、今は育児に専念しています。抱っこしたり、ミルクをあげたり、オムツを替えたり。本当に可愛いです。

――おめでとうございます！出産には立ち会われたのですか？

はい。自分が父親になるなんて信じられませんでしたが、元気に生まれた我が子を見て、嬉しさと感動がこみ上げてきました。妻と子供には本当に感謝しています。元気に育って欲しいです！

――最後に、今後の意気込みをお聞かせください。

父親となり、責任感に身の引き締まる思いです。仕事に対しても、「家族のためにも一層頑張ろう」と思うようになりました。今後も組合員のニーズに応えるべく、知識習得や技術向上に力を入れ、日々努力していきたいと思います。

家族への熱い思いを胸に、これからも頑張ってください！お忙しい中、ありがとうございました。

畜産ダイジェスト

酪農情勢

■生乳生産量

農林水産省は１月24日に12月の牛乳乳製品統計を公表した。12月生乳生産量は61万6,418tで前年同月比2.4％の減となった。北海道は31万8,931t（前年同月比2.7％減）で生産量の全国シェアは51.7％となった。

都府県の生産量は29万7,487tとなり、前年同月比で2.3％減少した。

生乳生産量と用途別処理量

（単位：t、％）

区分＼月		１月	２月	３月	４月	５月	６月
生乳生産量	全国	644,121	594,620	664,447	650,222	671,097	638,214
	群馬(委託実績)	18,743	17,425	19,910	19,599	19,959	18,641
	本会(委託実績)	5,725	5,354	6,125	6,558	6,640	6,158
用途別処理量	飲用牛乳等向け	320,541	301,201	320,571	324,209	346,307	346,396
	乳製品向け	318,662	288,565	339,160	321,246	320,073	287,092
	その他向け	4,918	4,854	4,716	4,767	4,717	4,726
前年対比	生乳生産量(全国)	99.7	96.8	99.7	100.1	100.0	99.4
	〃 (群馬)	99.2	95.5	99.5	100.1	99.8	99.5
	〃 (本会)	97.3	93.2	96.1	105.7	106.4	106.2
	飲用牛乳等向け	98.5	93.2	98.0	98.9	98.8	98.6
	乳製品向け	101.0	100.9	101.4	101.4	101.3	100.4

７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	計
632,103	607,577	593,120	608,496	587,766	616,418	7,508,201
18,295	17,574	17,052	17,591	17,062	17,950	219,799
5,996	5,665	5,601	5,768	5,564	5,805	70,958
349,569	328,957	353,511	350,359	325,513	307,194	3,974,328
277,756	273,978	234,854	253,213	257,466	304,525	3,476,590
4,778	4,642	4,755	4,924	4,787	4,699	57,283
98.1	96.5	98.2	97.0	97.2	97.6	98.4
99.4	98.4	98.9	98.0	97.4	98.5	98.7
106.1	104.4	107.7	103.9	103.1	105.1	102.9
100.4	99.0	97.9	98.3	99.0	98.5	98.3
95.4	93.6	98.8	95.2	95.1	96.7	98.4

■販売及び乳製品情勢

12月の用途別処理量は、牛乳等向けが30万7,194t（前年同月比1.5％減）、乳製品向けが30万4,525t（〃3.3％減）となった。

飲用牛乳等生産量は27万8,015㎘（〃2.0％減）で前月から0.4ポイント減少し、内牛乳が23万8,547㎘（〃2.4％減）、さらに乳飲料は10万857㎘（〃3.5％増）で前月より1.6ポイント増加した。

肉牛情勢

肉牛枝肉相場（２月予想） 消費が上向く材料に乏しく弱持合いの展開が見込まれる。一方、和牛出荷頭数は前年を下回る見通しで相場を下支えする可能性もある。

肉牛枝肉相場（予想）

和牛去勢A5	2,050円中心	和牛去勢A3	1,650円中心
和牛去勢A4	1,800円中心	和牛去勢A2	1,330円中心
交雑去勢B5	1,690円中心	交雑去勢B3	1,200円中心
交雑去勢B4	1,390円中心	交雑去勢B2	1,150円中心
		乳牛去勢B2	770円中心

枝肉価格の推移（群馬県食肉卸売市場）

（単位：円/kg、税込み）

年・月		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	平均・計
和牛去勢A4	24-25年	1,604	1,641	1,665	1,629	1,590	1,649	1,682	1,776	1,867	1,695	1,750	1,785	1,694
	25-26年	1,749	1,829	1,901	1,829	1,832	1,896	1,929	1,999	2,076	1,900			1,894
	前年格差	145	188	236	200	242	247	247	223	209	205			200
和牛去勢A3	24-25年	1,393	1,482	1,476	1,445	1,349	1,419	1,495	1,592	1,707	1,585	1,615	1,633	1,516
	25-26年	1,627	1,717	1,710	1,664	1,649	1,710	1,780	1,852	1,813	1,658			1,718
	前年格差	234	235	234	219	300	291	285	260	106	73			202
和牛去勢A2	24-25年	1,233	1,340	1,315	1,249	1,187	1,238	1,376	1,385	1,466	1,180	1,419	1,479	1,322
	25-26年	1,508	1,472	1,522	1,441	1,405	1,521	1,662	1,579	1,583	1,371			1,506
	前年格差	275	132	207	192	218	283	286	194	117	191			184

群馬県食肉卸売市場上場頭数

（単位：頭）

年・月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	平均・計
24-25年	1,270	845	1,167	1,467	1,406	1,383	1,336	1,887	1,668	1,000	1,123	1,025	15,577
25-26年	1,236	929	898	1,126	1,098	1,090	1,162	1,584	1,385	1,132			11,640
前年増減	▲ 34	84	▲ 269	▲ 341	▲ 308	▲ 293	▲ 174	▲ 303	▲ 283	132			▲ 3,937

■素牛動向

①全農・取引基準価格（乳去）260～300kg　540円／kg（前月比110.7％）

②Ｆ１価格　（去勢）250～300kg　1,190円／kg中心　（雌）250～300kg　1.058円／kg中心

③和牛子牛　（去勢）572千円中心（前月比97％）　（雌）495千円中心（前月比97％）

養豚情勢

枝肉相場関係

㈱群馬県食肉卸売市場（上物加重・円/kg）

（単位：円税込）

区分＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
23-24年（A）	477	460	537	509	473	431	351	384	436	390	393	388	436
24-25年（B）	397	420	479	443	468	425	365	358	418	363	390	404	411
25-26年（C）	450	499	485	498	507	499	466	477	521	458			486
（B－A）	▲ 80	▲ 40	▲ 58	▲ 66	▲ 5	▲ 6	14	▲ 26	▲ 18	▲ 27	▲ 3	16	▲ 25
（C－B）	53	79	6	55	39	74	101	119	103	95			75

豚肉価格形成要因

㈱群馬県食肉卸売市場と畜頭数（自家用と畜は除く）

（単位：頭）

区分＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間頭数
と畜頭数	24-25年	41,308	41,048	37,617	38,294	38,608	37,444	46,194	47,808	46,869	45,435	40,085	41,826	502,536
	25-26年	42,393	40,315	34,599	40,317	37,843	39,480	47,010	43,823	45,029	43,425			414,234
前年比（%）		102.6	98.2	92.0	105.3	98.0	105.4	101.8	91.7	96.1	95.6			82.4

肉豚生産出荷予測（全国）

（単位：千頭、前年同月比%）

区分＼月	7～9月	10月	11月	12月	10～12月	1月	2月	3月	1～3月	4月	5月	6月	4月～6月
全国出荷予測頭数（千頭）	4,051	1,542	1,496	1,552	4,590	1,461	1,344	1,419	4,224	1,446	1,385	1,263	4,093
前年同月比（%）	103	101	98	102	100	101	101	102	101	100	98	101	99

■生産動向：農水省食肉鶏卵課の肉豚生産出荷予測によると、２月の出荷見込頭数は1,344千頭（前年同月比101％）となっている。その後は３月1,419千頭（〃102％）、４月1,446千頭（〃100％）と予想されている。相場は頭数が減り底堅い展開になる見込み。円安や通関審査の厳格化を受け、輸入量も抑制傾向が続く。昨秋以降の高値相場が落ち着いたこともあり業者の購買意欲は上向いているが、消費は停滞しており大きく上げることはない見込み。

鶏卵情勢

鶏卵相場関係

■Mサイズ基準値

14年２月235円（見込み）　124％（前年比）

価格の推移

（単位：円）

区分＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
24-25年（A）		182	168	161	160	157	176	193	209	230	171	190	175	181
25-26年（B）		172	164	155	157	175	211	220	260	280	224			202
（B－A）		▲ 10	▲ 4	▲ 6	▲ 3	18	35	27	51	50	53			21
全国基金補填	24-25年	12.987	20.88	24.3	24.3	23.886	9.648	0	0	0	18.999	0	9.774	
	25-26年	15.714	21.645	24.3	24.3	9.306	0	0	0	0	0			

※平成 24 年度鶏卵価格差補填事業については、９月以降補填財源はありません。

■価格動向：１月の平均単価は224円（前年同月＋53円）と前年同月を上回り、平成25年２月～平成26年１月期平均は199円（前年同期比＋18円）であった。

■出荷動向：主要産地で餌付け羽数の抑制が進んでいるが、2月は生産調整によって強制換羽した鶏の産卵が回復に向かうため、供給量は徐々に増加する見込み。

■需要動向：目立った祭事がなく業務需要を中心に精彩を欠く。ただ、餌付け羽数の抑制で直近価格は前年の２割高と高水準で、この相場展開が続く見込み。

卵価要因

区分＼月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
加工卵輸入実績（t）	24年	2,356	1,930	2,508	1,781	2,301	2,198	2,403	2,515	2,609	2,762	2,399	1,921	27,683
	25年	1,838	1,961	1,997	2,283	2,151	1,776	2,084	2,488	1,867	2,201	2,451		23,097
前年比（%）		78.0	101.6	79.7	128.2	93.5	80.8	86.7	99.0	71.6	79.7	102.1		83.4
餌付羽数（千羽）	24年	7,436	7,459	8,065	7,908	7,874	7,780	7,768	7,007	7,534	7,803	7,238	7,314	91,186
	25年	7,215	7,317	7,520	7,742	7,767	7,895	7,200	6,896	8,170	7,346	7,464	7,636	90,168
前年比（%）		97.0	98.1	93.2	97.9	98.6	101.5	92.7	98.4	108.4	94.1	103.1	104.4	98.9%

■餌付見込

※農水省は餌付け羽数見込みを公表しないことになったため、今後、餌付け羽数実績のみ掲載することになります。

■価格の推移

(1) 15年：151円
(2) 16年：173円
(3) 17年：204円
(4) 18年：184円
(5) 19年：169円
(6) 20年：193円
(7) 21年：175円
(8) 22年：194円
(9) 23年：188円
(10) 24年：181円

単味飼料・原料情勢

平成26年２月　群馬県本部
畜産農産部　酪農畜産課

■原料情勢

①とうもろこし（シカゴ定期）

１月10日発表の米国農務省需給見通しによると、13/14年度の供給量は、収穫面積は増加したものの単収が下方修正され、生産量が減少したことなどから、前回発表から64百万ブッシェル減少し14,781百万ブッシェルとなった。一方、需要量は飼料向け需要が増加すると見込まれたことなどから、前回発表から100百万ブッシェル増加し、13,150百万ブッシェルとなった。期末在庫は、前回発表から161百万ブッシェル減の1,631百万ブッシェルとなった。

シカゴ定期は、１月度需給見通しが発表されると、13/14年度米国産とうもろこしの単収や生産見通しが予想外の引き下げとなったことから相場は大幅に上昇し、３月限は430セント／ブッシェル台に達した。直近の３月限は、エタノール生産量が昨年10月以来の水準まで減少したこと、またブラジル産の豊作見込みが弱材料となり、現在420セント／ブッシェル台を推移している。

今後の相場に影響を与える材料としては、米国内における寒波による飼料用需要の増加見通し、未承認ＧＭＯ種子混入とうもろこしの中国における輸入拒否の動向、新穀の生育期に入っている南米の天候状況などが挙げられる。

米国産とうもろこしのＦＯＢプレミアムは、農家売りが少ないことや輸出需要が強いことから堅調に推移している。

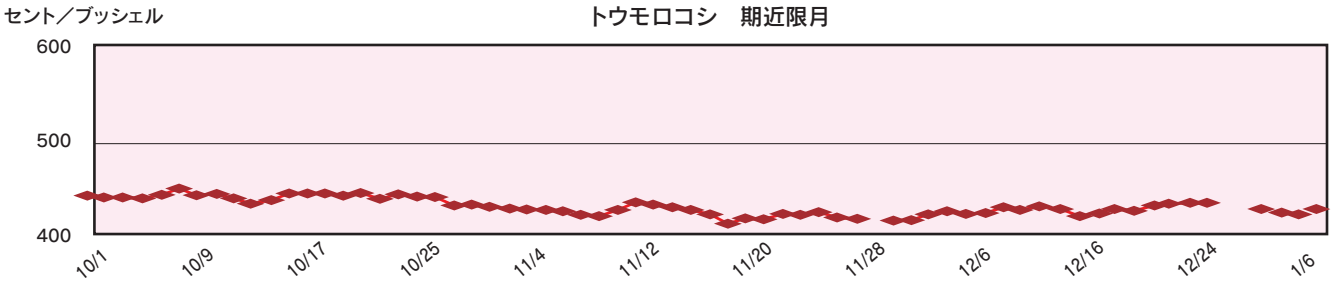
②大豆粕

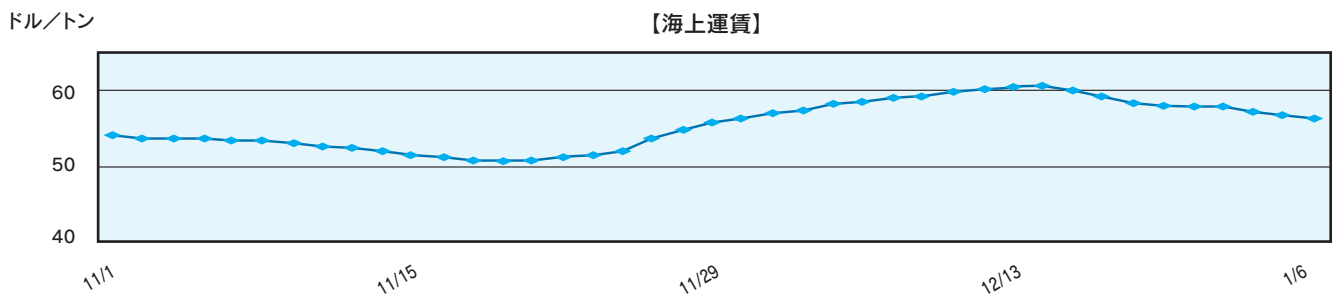
１月10日発表の米国農務省需給見通しによると、13/14年度の大豆需給見通しは、収穫面積及び単収の上方修正を受け、生産量が増加し、前回発表より30百万ブッシェル増加する見通しとなった。一方、需要量は輸出向けが増加したことに加え、搾油向け需要の増加も見込まれていることから、前回発表より30百万ブッシェル増加して、3,304百万ブッシェルとなり、この結果、13/14年度の期末在庫は前回発表と変わらず、150百万ブッシェル、在庫率4.54％となった。

大豆粕のシカゴ定期は、中国による米国大豆の大量成約の影響をうけ、現在は430ドル台で推移している。

■海上運賃

米国ガルフ－日本間のパナマックス型海上運賃は、年末年始休暇に向けての駆け込み需要も終了し、中国向けに関しても旧正月に向けて需給が緩むことが予想されており、用船料相場は軟調に推移している。現状は55ドル付近で推移している。





花木流通センター便り

花木流通センターの耳寄りな情報をお届けします！

花木流通センターでは、家庭菜園に役立つ様々な講習会を開催しております。野菜の栽培講習会・農業機械の使い方講習会・花の寄せ植え講習会・各種加工品の作り方講習会等、その時期に最適な講習会を行っています。３月は、毎年大人気のじゃがいもの栽培講習会や肥料講習会を開催予定です。この機会に是非ご参加ください。

３月の売出し・イベント案内

開催日	内　容
３月２日㈰ 10:00～	栽培講習会（じゃがいも）・マメトラ管理機講習会 【参加費無料・申込み不要】
３月８日㈯ ～９日㈰	愛菜館 13周年大創業祭 ※愛菜館にて開催
3月20日㈭ ～23日㈰	花木流通センター 39周年大創業祭
３月23日㈰ 10:00～	肥料講習会（基礎知識） 【参加費無料・申込み不要】

※売出し・イベントの日程・内容は変更になる場合があります。

JA 花と緑あふれる広場

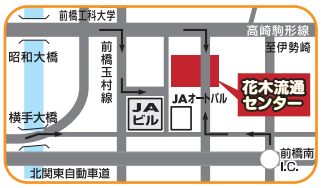
花木流通センター

営業時間:年中無休/9:00～18:00

（節電のため7月～9月毎週火曜日定休）

取扱商品

■園芸資材館/営農・園芸資材等
■ふらわーらんど/鉢花、花苗等
■JA植木コーナー/緑花木、盆栽等
■エクステージ/外構・造園工事等
■ブランド野菜館/産直野菜、農産加工品等
■外売場/野菜苗、大型肥料・用土、植木鉢等



お問い合わせ先 TEL:027-220-2427 FAX:027-220-2424 前橋市亀里町1307-1

たさいひろば JA直販 愛菜館

営業時間:毎週火曜日定休/9:00～18:00

取扱商品

■産直野菜
農産加工品
店頭精米等

お問い合わせ先 TEL:027-210-7788 FAX:027-210-9811 前橋市古市町106-1

JA全農ぐんま

グッドぐんまの旬の市

1階店舗のご案内

営業時間:毎週木曜日定休/AM10:00～PM18:00

土日は群馬県農畜産物のPRイベント、平日は県特産品の販売をしています。

■電車/東武伊勢崎線「浅草駅」より 徒歩3分
■地下鉄/東京メトロ銀座線「浅草駅」より 徒歩3分

お問い合わせ先 〒111-0032 東京都台東区浅草一丁目34番4号 TEL:03-3844-0830 FAX:03-3844-0837

◆◆◆ 旬の市３月のイベント案内 ◆◆◆

３月１日㈯ ～２日㈰	ぐんまの梅と漬物フェア
３月８日㈯	地酒フェア（ブルーベリーワイン・日本酒）
３月15日㈯	米麦特産課　焼きそばフェア（さとのそら使用）
３月22日㈯	JAたかさき 加工品フェア（うどん・どらやき・かりんとう他）

※イベントの日程・内容は変更になる場合があります。

『県本部通信』における個人情報の取扱いについて

『県本部通信』に投稿いただいた方の個人情報は、プレゼントの発送やお返事、紙面での紹介に使用させていただきますのでご了承ください。また、これらの個人情報は前記の目的以外には使用せず、ご本人より事前に同意をいただいた場合以外には一切開示いたしません。

自由なご意見・ご感想をお寄せください。

《あて先》
〒379-2147群馬県前橋市亀里町1310番
「県本部通信」係まで
E-mail：info-gunma@gm.zennoh.or.jp
※JAメール等でも結構です。

プレートを
キャンバスに
見立てて

Art Cooking

Food adviser - 石垣 惠美

1979年から群馬県家の光講師。
FM局等でも活躍中。

ウドとゴボウのカレー炒め

材　料

2人分　（1人前96kcal）

- ウド……1本
- ゴボウ……½本
- オリーブオイル……大さじ1
- A
  - カレー粉……小さじ½強
  - 塩……小さじ½強
  - コショウ……少々

作り方

1 ウドを洗い、5㎝程の長さにせん切りにする。
2 1を酢水につけ、アクを抜く。
3 ゴボウの皮をそぎ、5㎝程の長さにせん切りにする。
4 3を水につけ、アクを抜く。
5 オリーブオイルを入れた鍋を火にかけ、3を炒める。
6 更に2を加え炒め、油がまわったらAの材料を加え、味を調える。

■発　行／平 成26年2月28日発行　■発行所／全国農業協同組合連合会群馬県本部 管理部企画開発課
■発行人／山田　一良　〒379-2147 前橋市亀里町1310番地　TEL 027-220-2223　Fax 027-220-2229
■ホームページアドレス／ http://www.gm.zennoh.or.jp　■E-mailアドレス／ info-gunma@gm.zennoh.or.jp

R100 古紙配給率100%再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOYINK この印刷物は大豆インキを使用して制作しています。